



★ 第2楽章は進んでいます！

皆さん！それぞれの役をお持ちになって・・・。



整理する



型紙を作る



テープを巻く



見立てる



“糸杉”完成！みんなで万歳！



押さえる



並べる



貼り付ける



引っ張る



組み立てる

【紙面拝借】

「誰かの役に立ちたい」という歌詞で始まる「ひまわりの歌」に続いて、子供との交流会で歌い始めたのは、厚木飯山に伝承されているわらべ歌、「タニシの歌」。子供たちは3回程歌うと何となく覚えるようです。簡単なメロディと語呂の良さが要因の様です。「私は厚木の生まれではないから知らないな〜」とお話しされる方も2〜3回で一緒に歌われています。今回は、その「タニシの歌」を全国わらべ歌全集より紹介します。

♪ た〜にし こつと こと
飯山のまちへ 行かないか
い〜やな こつと こと
去年の春も 行ったらば
山椒の味噌で あえられた

※「まち」とは市のこと。



タニシ取り

★テレビ紹介 地球ドラマチック「80歳、4歳児と友達になる！？」Eテレ

私達は週1回、水曜日の夕方〜たいよう学園（学童保育）と異年齢交流を続けています。得意な「けん玉」を見せに来たり、国語の教科書を読んでみたり、時に風船バレーで入居者の皆さんと競い合ったり、三つ編みを一緒に編んだりと遊んでいます。こうした異年齢交流は子供側からの説は多々ありますが、高齢者側からはあまり検証されていません。この番組は私達にとっても興味深い番組です。ヒントもあまらず。録画DVDがありますので、ぜひ入居者の皆さんとご覧下さい。



友達になる



番組から



きみどり玄関

またね、手を振る子たち

「高齢者施設を子供達が訪れ、ふれあい交流——」よく耳にする取り組みだと思いますが、この番組は「果たして、その試みに“科学的な効果”はあるのか？」を徹底的に検証してみようという、イギリスの社会実験番組です。日本と同じように、イギリスも高齢化社会に直面しており、昨年は「孤独担当大臣」が創設されて大きな話題になりました。番組は「高齢者の社会的孤立や孤独は、健康に影響を及ぼす深刻な社会の課題の一つ。」という認識からスタート。その上で、「薬ではなく、社会関係や人間関係を改善するだけで、孤独な高齢者をどこまで元気にできるのか？」を科学の視点で検証します。6週間に渡って、高齢者達、子供達、そして専門家が挑戦する、まさに前代未聞の画期的なプロジェクトです。人生100年時代に、一石を投じる番組です。高齢者の幸福感、運動機能、認知機能はどう変化するのか？科学的な検証を行います。（NHK 番組紹介より）

★ 映画紹介 【永遠の門】 11月8日より 新宿ピカデリーにて

—ゴッホを主人公にし、画家を新たな視点で描く。全身に浴びる映像の衝撃—

19世紀末。パリの画壇では、全く評価外のゴッホ。知り合ったばかりのゴーギャンの「南に行け」の言葉に啓示を受け、南アルルにやってくる。新しい題材と光に飢えて。カフェの女主人ジヌー夫人の計らいで“黄色い家”と命名した棲み家も確保。全ては献身的に兄を支える弟のテオの送金に頼っている。兄の絵に顧客をつけたいテオだが、全く成就せず、兄の孤独と不安を癒すべく、ゴーギャンとの共同生活を提案。ゴーギャンも受け入れる。彼はゴーギャンの自分にはない才能と視点を認めていた。だが画風、テーマ、絵画哲学が相反する二人は訣別。ゴッホは再び孤独にこもり、耳を自傷する奇怪な行動に走る。伝道師の息子でもあるゴッホが、人生の最終章で出会った療養所の神父と交わす会話が奥深い。アルコール依存症、梅毒、統合失調症、薬物治療の行き違い、ピストル自殺……語られている諸説を退け、画家の最晩年に“愛”を注いだ。終始、突然に降り注ぐ精神の高揚。奇行。それを表現する手振れ画面が秀美。孤独と暴発を具現する役者がデフォルメに陥ることなく、画家になりきる。画家でもある監督の思いがあふれ、テオとゴーギャンの扱いにも敬愛が深い。「まだ見ぬ絵を描くために、新しい光を見つけないか」異論は多々。微妙にあるにしても、成功と結果を性急に判別したがる現代人に、壮絶な、しかし、だからこそ美しい季節(人生)を生きた人間の存在を心に焼きつける。（MOVIESより）



永遠の門
ゴッホの見た未来